

花の形と色の制御を目指して

鳴海貴子

農学部准教授 博士（農学）

専門分野 花き園芸学



花きの品質を決める上で重要な形質は、「花形、花色、草姿、香り、日持ち性」である。これまで、八重咲き形質のメカニズム、花色関連遺伝子導入による新しい花色を持つ花の作出など、特定の形質に着目した研究が盛んに行われてきた。しかし、花弁配色パターンおよび輝く色調・光沢を含めた『花弁の見た目』を制御する機構は殆ど明らかになっていない。これまでのトレニアを用いた研究により、花弁表皮細胞の変化が花形、輝く色調・光沢など『花弁の見た目』に影響を与えることを明らかにしている。そこで、トレニアを中心に器官分化に関わる遺伝子群や花弁表皮細胞形成に関与する遺伝子群に着目し、新規遺伝子サイレンシング法を用いて制御機構を解明することにより、花の形づくりの深い理解と新しい花弁配色パターンおよび輝く色調・光沢を持つ花き作出技術の開発のための基礎知見につなげたいと考えている。



左：野生型のトレニア、右：花弁表皮細胞が変化した形質転換トレニア